

「終戦」後、中国で国共内戦を戦った日本兵がいたことを知っていますか



日本の防衛費が大幅に拡大されようとしています。圧倒的なパワーを持つ中国に対して、日本の立ち位置や国益を確保することが、防衛費拡大論の根拠とされています。

しかしながら、いざ有事となったときに血を流すのはもちろん国ではなくて人間です。『蟻の兵隊』は、第二次世界大戦後、中国山西省に残留した日本兵たちが、ポツダム宣言後も武装解除することなく中国国民党の軍閥に合流、四年の間共産党軍と戦っていたという事実を取り上げ、国の戦争のために個人がどのように教育され、戦場に連れて行かれ、そして取り残されたのかを奥村和一さんという残留兵個人に寄り添って追うドキュメンタリーです。戦争を被害と加害の両面から描き、2006年の公開時には大ヒットを記録しました。

国と国、政府と政府のプロパガンダ合戦に飲み込まれてしまう前に、ぜひこの映画を見てもらいたいと考えて上映会を企画しました。

池谷薫監督にも講演を依頼しましたので、ぜひ併せてご参加ください。

池谷薫氏プロフィール

1958年、東京生まれ。映画監督、甲南女子大学教授。同志社大学卒業後、数多くのテレビドキュメンタリーを演出する。劇場デビュー作となった『延安の娘』（02年）は文化大革命に翻弄された父娘の再会を描き、カルロヴィ・ヴァリ国際映画祭最優秀ドキュメンタリー映画賞ほか多数受賞。2作目の『蟻の兵隊』（06年）は「日本軍山西省残留問題」の真相に迫り記録的なロングランヒットとなる。3作目の『先祖になる』は東日本大震災で息子をなくした木こりの老人が自宅を再建するまでを追い、ベルリン国際映画祭エキュメニカル賞特別賞、文化庁映画賞大賞を受賞。4作目の『ルンタ』（15年）は非暴力の闘いに込められたチベット人の心を描く。著書に『蟻の兵隊 日本兵2600人山西省残留の真相』（07年・新潮社）、『人間を撮るドキュメンタリーがうまれる瞬間』（08年・平凡社・日本エッセイスト・クラブ賞）ほか。



蟻の兵隊
The Ants

監督:池谷薫 | 製作:権 洋子 | 撮影:福居正治・外山泰三 | 録音:高津祐介 | 編集:田山晃一

音楽:内池秀和 | 音響効果:鈴木利之 | コーディネーター:劉 慶雲・大谷龍司 | 撮影技術:ゴウエスト | 録音スタジオ:三友VTC | レーザーキネコ:ヨコシネD.I.A.

取材協力:全国山西省在留者団体協議会 | 撮影協力:中国国家広播電影電視総局・山西省人民政府外事弁公室

写真提供:小松崎輝一・盛岡タイムズ社 | 映像資料:FCT福島中央テレビ | スチール:岡本 央 | HP作成:中山綾子 | 日本語字幕:赤松立太

芸術文化振興基金助成事業 | 製作・配給:運ユニバース | 協力:蟻の兵隊製作委員会・蟻の兵隊を観る会・プロGRESSピクチャーズ

公式HP: <http://renuniverse.com/ari>